

(4) 教授過程

過程とわらい	時間	内 容	と 分 担	形 態	反 応 評 価	準 備
1. 集合整列させる。	2	○ 健康の観察と見学者の指示をする。	1. 階形の集合隊形にする。	大		
2. 学習内容を把握させる。	3	○ 学習態度を観察し、時には質問をして個別に確かめる。 さらに聞いておきたいことはないか。	2. 体操、台上前転、腕立て閉脚とびについて知らせる。 ・ 体操 ・ 集団走、なわとび、伸運動	大	緊張感 - /32	ピアノ
3. 体操をさせる。 ① 調整力や柔軟性をつけさせる。	10	○ ピアノでかけ足の伴奏をする。	3. 集団走の指導をする。 ・ 前かがみにならない ・ リズミカルな走り ・ 合図による方向転換	大		
4. 台上前転をさせる。 ② 基礎的技術を養う。 ・ 助走を生かした両足踏み切り ・ 両手でのききえ 背を丸めでの前転	10	○ 用具の準備点検をする。 ○ 進め方について、個別に観察し理解を確かめる。 今日ではよくできそうだと思う者はどれ位いるか。	4. なわとびグループと伸運動グループに分け、ローテーション学習 4. 伸運動について指示する。 ・ 3人1組のリズムとび ・ (よぶ者は号をかける) ・ 伸立て競走 ※ グループ運動の交代を指示する。	中	なわとび 要領援助 を要する者 /32 伸運動 向上した者 /32	短なわ 各自 種12本 アレー
5. 閉脚の腕立てとびこしをさせる。 ③ 基礎的技術を養う。 ・ 助走を生かした、低いはいりの踏み切り ・ ひざの早い曲げと両手の突き放し ・ とび方のリズム	12	○ 用具の準備点検をする。 ○ 援助を要する児童に助言する。 ○ 安全実施の援助をする。	5. 台上前転の要領を説明する。 ・ 強く踏み切り ・ とび箱をかかえるような手つき ・ 背を丸めて前転 (各自めあてをもつ、他人の演技をよくみる) ・ 2~3人の演技をとおして補足する。 ※ A、B、Cの段階グループに分ける。	大	向上した者 A / B / C /	とび箱 踏み切り 板 マット 各3
6. まとめの学習をさせる。	6	○ 個別にまとめの援助をする。 ・ まとめの助言 ・ 努力者の賞賛 努力してしようようになったと思う者はどれ位いるか。 よくなったと思うところがあるか。 まだ練習が足りないと思うところはどこか。	6. C段階グループの指導をする。 ・ マットの上での前転 ・ 5~6歩助走での前転 9. A段階のグループ指導をする。 (とび箱の高さ80cm、踏み切り板の距離30cm) ・ 助走距離をのびした踏み切り ・ 胸に早いひざの引きつけ ・ 両手の後ろ下の突き放し ・ リズミ的なとび方 9. B、C段階のグループ指導をする。 Bグループ (とび箱の高さ70cm) ・ 各自に合った助走距離 ・ のび強い踏み切り ・ ひざの引きつけ ・ 両手の突き放し ※ よくできるようになった者はA段階のグループに入れる。 Cグループ (とび箱の高さ60cm) ・ Aグループの演技を見学 ・ 話し合い ・ 援助により実施 ・ 両足の踏み切り ・ 両手の突き放し ・ ひざをそろえた曲げ ・ 両手のつきはなし	小	向上した者 A / B / C /	同上
7. あとしまつをさせる。	2	12. あとしまつの全体指導をする。 ・ 分指内容で協力 ・ からの清潔	10. 2~3の者の演技をとおして、まとめの指導をする。 ・ 観点をしめた見学 ・ めあてによる反省 ・ 今後の努力点、決断の予告 11. 整理運動をさせる。 ・ 隊形自由	大	上手 /32 上手・発表 /32 上手・発表 /32	

(5) 評価

学年団を基盤として、教師の協力体制で単元(題材)指導計画を作成し、チーム・ワークにより分業・協業し、学級集団の弾力的な取り扱いで、「集団の再編成による教授過程のあり方」、「教師の役割分担とその活動のあり方」を活動の実際をとおして確かめることである。

単元指導計画については、目標の細分化・内容の系列化・評価項目の対応の3つの視点を設定し、次のような事項について配慮する。

- ① 細目標は、系統的に範囲と程度が明らかであるか。
- ② 細目標は、具体事実としてとらえられているか。
- ③ 内容は、要素事項とその相互関連事項が明らかにされているか。
- ④ 内容は、実態に即した配列であるか。
- ⑤ 評価項目は、平易な表現であるか。
- ⑥ 評価項目は、細目標・内容系列とよくかみあっているか。

教師の役割分担については、ともに特性を生かし、主体的な活動が展開できたかにある。次にその観点あげることにする。

- ① 主となる教師
ア、段階的に細目標をおさえ、要素事項、関連事項を要領よく提示することができたか。
イ、一般化、転移の示唆・誘発が無理なく行なわれたか。
ウ、各段階ごとの評価値が適切であり、容易に行なわれたか。
エ、役割分担に満足感・充足感をもつことができたか。
- ② 援助する教師
ア、児童側にたつて、理解や疑問に対する援助がじゅうぶんであったか。
イ、準備や点検が順調にでき、安定感をもたせることができたか。
ウ、時間にふりまわされず、個別観察・援助が行なわれたか。
エ、役割分担に満足感・充足感をもつことができたか。

集団編成については、教師の役割分担とのかかわりあいから個別化・集団化により、本質的な授業に迫ろうとするもので、次のような事項をみる。

- ① 過程内における再編成の基準は内容に合致していたか。
- ② 各構成員は安定感を持ち、積極的な努力と希望がみられたか。

協力組織体制による教師の役割分担は、ともに主体性もたれ、その効果に期待がもてるようになるが、教授過程については、今後の研究にまたなければならぬ。